

Contents

03 Topics

サクラ咲く 10年ぶり 掲示板での合格者発表
平成27年度入学式を挙行
平成26年度卒業式・大学院学位記授与式を挙行

14 **濃いっ! 阪大1** — ジャパニーズ・ウイスキー編 —

ジャパニーズ・ウイスキーの
レジェンド 3/4

20 Topics

大阪大学オリジナルウイスキー完成記念イベントを開催

24 **濃いっ! 阪大2** — 「光吹-MIBUKI-」開発編 —

「大阪大学オリジナルウイスキー
光吹-MIBUKI-」誕生。

28 役員室だより

35 人事／訃報

38 表彰・受賞等

39 教職員インタビュー

40 阪大の組織 AtoZ「グローバルアドミSSIONズオフィス」

42 阪大ほっとニュース

44 阪大百景

45 Information



【表紙写真】
「大阪大学オリジナルウイスキー
光吹-MIBUKI-」と桜
表紙写真撮影
クリエイティブユニット

Topics



新入生・フレッシュマンの皆さん、
新しく大阪大学の門をくぐられた全員の方を
心から歓迎いたします。

10年ぶり 掲示板での合格者発表

3月9日(月)、3月22日(日)、
大阪大学入学者選抜試験の合格者
(前期日程2,994名、後期日程396名)を発表しました。
今年の合格者発表は、ホームページと掲示の両方で行われました。
平成17年度入試以来10年ぶりの掲示による発表で、
キャンパスには多くの受験生が集まり、
合格の瞬間を生で体感しました。

バンザイ!



ヤッター!



オメデトー!



平成27年度入学式 総長告辞 <要旨>

「歴史的大変革期を生きる」

大阪大学に入学ならびに進学されました皆さん、おめでとうございます。また、ご臨席いただきましたご家族の皆さま、関係者の方々に心よりお祝い申し上げます。あらゆる可能性を秘めた前途洋々たる皆さんは、本日、大阪大学の一員として、あらたな人生を踏み出すその第一歩を迎えられました。大阪大学総長としてこの上もない喜びであり、大阪大学は心から皆さんを歓迎いたします。

皆さんは、今の大変革期を生きるにあたり、日本は勿論もっと広く世界に目を向け、「社会の変化に対応する」力を身につけなければなりません。では、現代の社会が求める人材、その能力とはどのようなものでしょうか？例えば、決断力、行動力、そして言語運用能力を含むコミュニケーション能力。これらは、しばしば優れたリーダーの素質として語られます。確かにこれらの能力を身につける必要はあります。しかし、急速に変化し続ける現代社会においては、これらの汎用的能力だけでは十分ではありません。これからの社会が求める人材とは、多元的な課題に潜む物事の本質を見極め、従来からの常識や考え方を超えた課題解決を先導できる人材であると私は考えます。「物事の本質を見極める力」とは、現象として認知可能な事象の奥に潜む、その事象の力ギとなるもの、そしてその仕組みを見極める力を意味しています。「一芸に秀でた者は総ての道に通じる」とい

う言葉があります。この力の基盤となるのは、特定の分野をとことんまで究めた高度な専門性です。大学が最先端の研究を行い、それに基づく高度な専門教育を行う意義はここにあるのです。

また、物事の見方の転換も重要かもしれません。例えば、科学技術の力で自然を征服するという発想ではなく、如何にすれば人類は自然と共生できるかを真剣に考える必要があります。また老・病・死など人間が避けて通れない問題も、今までは生命科学や医学の発展により克服するという姿勢で研究が行われてきました。しかし、そのような発想を転換し、どのようにすれば人類はこれらの問題と共生し心安らかな人生を全うできるかを、見つめなおす必要もあるでしょう。このように、荘子の胡蝶の夢の例のように、物事を見る時、一面から見るのではなく、複眼的に様々な観点から見る必要があります。さらに、物事の全体像を捉える「俯瞰的視点」も重要です。「木を見て森を見ず」という言葉が示すように、一本の木にとって都合の良いことが、必ずしも森全体にとって最善の策とは限りません。短期的にはその木にとって最善の策であっても長期的に森全体にとって悪影響があれば、結局はその木にとって致命的な問題となるのです。

これらの視点を養うのは幅広い教養教育です。教養教育は、単に知識の蓄積ではなく、広く柔軟な視点の

※全文は大阪大学ホームページに掲載しています。



獲得に繋がるものとして重要です。さらに、グローバル社会においては、人類の活動のフィールドはますます拡大していき、異なる言語、文化、民族、宗教、国の相手との関係構築、そして協働が必要となります。そのような状況に適切に対応するためには、孔子の言葉である、相手の心や立場を鑑みて物事を判断する「恕」の心、即ち「寛容の心」と、他者の異なる文化や考え方を理解・尊重する「共生の心」を育むことが重要です。そして、この前提として忘れてはならないのは、「己を知る」ことです。多様性を持つ人類が共存共栄していくためには、まず自己を知り、自国の文化を理解し、かつ尊重することが必要です。自分自身を、自国を愛することが出来なくて、それらを誇りに思うことができなくて、どうして他

人や他国を理解し尊重することが出来るでしょうか？

皆さんは、大阪大学で思う存分学んで欲しいと思います。さらに積極的に自ら問題意識をもって回答を求める努力をして欲しいと思います。また世界に目を向けて欲しいと思います。積極的に海外に出かけて様々な国の人と交流して欲しいと思います。大阪大学には様々なプログラムや機会があります。是非ともこれらを積極的に有効活用して歴史的大変革期を生きてください。

平成27年4月2日

大阪大学総長



新入生のみなさん、 ようこそ大阪大学へ。

4月2日（木）、大阪城ホールで平成27年度大阪大学入学式を挙行し、新たに6,415名（学部3,489名、大学院2,926名）が入学、進学しました。



平成26年度卒業式・学位記授与式 総長式辞 <要旨>

「多様性爆発の世紀に生きる」



本日、大阪大学から新たな一步を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士・博士課程修了生の皆さん、そして専門職博士課程修了生の皆さん、ご卒業、修了おめでとうございます。卒業式・学位記授与式にあたり、これまで大阪大学で学び、努力と研鑽を積み重ねられた皆さんに対して、大阪大学総長として心からお祝いし、讃えたいと思います。

多様性による発展と対立の歴史

最初に、皆さんがこれから活躍する社会はどのような状況にあるのか話をしたいと思います。今、私たちは「多様性の爆発の世紀」にいるのではないかと思います。

20万年位前にアフリカを起源としてホモ・サピエンスが誕生して以来、人類は数万年の歳月をかけてユーラシア（アジア、ヨーロッパ）、オーストラリア、アメリカ大陸へと移動、拡散して行き、この間にコイサン、コーカサイド、モンゴロイド、アボリジニの4つの人種が生まれて今日に至っています。そして、1万年から数千年前にメソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明、中国文明、マヤ文明等の様々な文明が各地に開花しました。これらの文明は地理的な関係に依存して緩やかな関係を保つこともありましたが、それぞれが独自に生まれ、周辺地域を巻き込みながらお互いが影響し合い変貌をとげていきました。その過程でユダヤ教、キリスト教、

イスラム教、仏教やヒンズー教など様々な宗教が生まれるとともに、言語や文化などの多様性が生まれて来ました。4つの人種はさらに細分化され様々な諸民族が今、地球上には暮らしています。これらの様々な多様性を有する人類は長い歴史の中でお互いが影響し合い、かつ対立を引き起こし、時には戦争すら引き起こして来ました。このような多様性の対立は単に従属や支配関係のみに終わることなく、時として火薬のような武器等の科学技術の発展も誘導して来ました。また多様性が交わることで人類社会に様々な革新的な変革がもたらされました。さらに多様性は人類社会に心の豊かさをもたらしました。このように人類の長い歴史は多様性がもたらす発展と多様性ゆえに生じる対立や戦争の歴史であったと言えると思います。

21世紀は多様性爆発の世紀

では、21世紀のグローバル社会においてはなにが起こるのか、この点をよくよく考える必要があります。移動手段や情報伝達手段の発展に加えて、急激に進む人口の増加があります。永らく数億人であった世界の人口が、19世紀に10億人を突破し、その後急激に増加し、現在70億人、そして2050年には90億人を超えると推定されています。このように、移動手段や情報伝達手段のみならず、人口増加の観点からも地球は飛躍的に狭くなりつつあります。長らく比較的広大な地球に存在していた多様性は今、第5のグローバル化の波の中で、

人口増加も加わり狭い時間空間に凝縮されようとしています。多様性の凝縮の問題に加えて、急激な人口の増加や技術革新は食料問題、エネルギーや環境問題、さらには感染症問題や生物多様性の危機など、様々な要因が複雑に絡んだ地球規模の深刻な問題を投げかけています。まさに人類の歴史は多様性による発展と対立の歴史であると言われるゆえんです。人類歴史の中で過去に例をみない次元でグローバル化が進む現在の国際社会では、狭い時間空間に凝縮された多様性がもたらす負の側面が飛躍的に強くなり、様々な対立や紛争が世界に蔓延しつつあると思います。21世紀は「多様性の爆発の世紀」になる可能性すらあります。温度が連続的に変化し、ある時点で個体から液体へ、さらに気体へと全く異なる次元へと非連続的に物質が変化する、そのような大きな変革期を人類は迎えているのではないかと思います。21世紀のグローバル社会においては多様性を維持しながら、多様性が生み出す障壁を乗り越えることが人類の生存にとり不可欠だと思います。皆さんが学んだ大阪大学は学問の府です。大学は「調和ある多様性の創造」により、グローバル社会に大きく貢献しなければなりません。

平成27年3月25日

大阪大学総長



※全文は大阪大学ホームページに掲載しています。